

授業科目名	助産と薬理 <i>Pharmacology for Midwifery</i>		担当教員	柳原 延章、吉永 宗義	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	15(1)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	女性のライフステージ、妊娠時における薬物動態の基礎、正常周産期の妊産婦および授乳婦のケア、そして産科救急に必要な薬品の薬理作用の知識を習得する。さらに、受胎調節実地指導に必要なピルを含めた避妊薬の知識を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠週数ごとに、妊婦にかかわる薬物療法の概要を説明することができる</li> <li>2. 経口避妊薬、ホルモン補充療法の概要を説明することができる</li> <li>3. 新生児に対する薬物療法の概要を説明することができる</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回 産科で使用する薬剤について学ぶために、妊娠週数と薬物の影響（高橋浩二郎：九州東邦株式会社）</li> <li>2回 妊娠期に用いる薬剤（高橋浩二郎：九州東邦株式会社）</li> <li>3回 妊娠期に用いる薬剤の実例（高橋浩二郎：九州東邦株式会社）</li> <li>4回 続発性無月経とホルモン治療（柳原）</li> <li>5回 経口避妊薬、ホルモン補充療法（柳原）</li> <li>6回 国試問題とまとめ（柳原）</li> <li>7回 新生児に用いる薬剤（吉永）</li> <li>8回 授乳に影響を与える薬剤（吉永）</li> </ol>				
学習方法	<p>授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。いくつかのテーマに関して、事前課題を提示する。その課題レポートおよび、講義を合わせて理解し、考察を行う。</p> <p>最新の医薬品情報を適宜収集・確認する習慣を身につける。</p>				
オフィスアワー	yanagin@med.uoeh-u.ac.jp、m-yoshinaga@jrckicn.ac.jp、t-kojiro@kitakyu-hp.or.jp まで、アポイントをとってください。				
テキスト	指定しない、適宜、資料を配布する。				
参考文献	<p>松田 静治：妊婦と薬物治療の考え方—投与時の注意と禁忌。東京，ヴァンメディカル，2004.</p> <p>Gerald,G.Briggs,et al.: Drugs in Pregnancy and Lactation: A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk 8<sup>th</sup>Ed.. Lippincott Williams &amp; Wilkins, 8.</p> <p>日本産科婦人科学会・日本女性医学学会：ホルモン補充療法ガイドライン。東京,日本産科婦人科学会, 2012.</p> <p>日本産科婦人科学会編：低用量経口避妊薬の使用に関するガイドライン改訂版.日本産科婦人科学会雑誌. 58(3)：894-962, 2006.</p>				
評価方法	筆記試験（80%）、授業参加度（20%）				